

ゆうがく



2025 DEC.

vol.89

ガラスの中を金魚が泳ぐ？

今年度から自然科学分野の客員教員を務めております山形大学理学部の臼杵(うすき)です。山大理学部では化学分野に所属しており、構造不規則物質(原子や分子が不規則に配列した物質)に関する研究を行っております。何やら生活に全く縁のない物質のように感じられるかもしれませんが、構造不規則物質の代表選手は「ガラス」です。ガラスなら皆さん知らない人はおられませんよね。飴やチョコだって構造不規則物質ですし、プラスチックや金属にも仲間がいて、液体も親戚ですから、私たちの身の回りは構造不規則物質だらけ、と言っても過言ではありません。そんな物質の不思議に興味を持ち研究を行っています。

時は大学時代の研究室選びに遡ります。説明会で教授(後の恩師)が「規則正しい物はすぐに理解できてつまんない。不規則な物こそ難解だけど面白い!」という紹介をしてくださり、全く想像ができない世界で逆になんと魅力的に感じ、研究室として選んでしまいました。これが、私が構造不規則物質と出会うきっかけでした。それから気付けば30年以上。その間、研究により分かってきたこともありますが、それ以上に分からないことが増えてしまいました。今後どこまで疑問を明らかにできるだろうか、これ以上分からないことがさらに増えはしないか、と悩んでいるところです。

さて、今一番ハマっている疑問は、イオンが高速で動けるガラスがあり、カチカチ固体のガラスの中をどうしてイオンが高速で動けるのか? という点です。液体の中ならイオンも動けるのですが。。やや強引に言い換えると、水の中を金魚は泳げますが、金魚が泳げるガラスがあり、カチカチ固体のガラスの中をどうして金魚が泳げるのか? という感じです。で、そんな

研究が何に役立つのか? と言われそうですが、近い将来、車が全部電気自動車になるかもしれず、その時に活躍が期待されている全固体電池(全部固体でできた電池)に関係します。現時点で主流の乾電池やリチウムイオン電池は、みな液体が入った電池なので、衝撃や加熱で電池が壊れた際には中の液体が漏れ出て、それが燃えやすいので発火事故が起きています。そんな電池を多数積んだ自動車がかもしも事故に遭ったらと想像すると怖いですよ。その危険を回避するために、液体を一切使わない全部固体でできた全固体電池が注目されている訳です。

この分野では今、大学や企業が全力で競争しています。ここで鍵となるのが、固体の中をイオンがどれだけ高速に動けるか、です。その可能性のある固体としてガラスも有力候補の一つになっているのです。そんな中で私も、もの凄いガラスを見つけたり、そもそも何故ガラスの中をイオン(金魚)が高速で動けるのかの謎を少しでも解明できたらいいな、とワクワクしながら学問や研究を楽しんでいきたいと思っています。

。。。。「ゆうがく」って、素敵な言葉ですね!

山形大学学術研究院
教授(理学部担当)

臼杵 毅

専門:物質科学・材料科学・物理化学





令和7年度 第1学期 学位記授与式を開催しました

令和7年9月27日(土)、山形学習センター(山形SC)において、令和7年度第1学期学位記授与式を開催しました。当センターからは、教養学部17名の皆さんが学位(教養)を取得され、当日は出席された7名お一人お一人に、山本陽史所長から学位記が授与されました。

放送大学では、6コース全てを修了された学生に「放送大学名誉学生」の称号を付与しており、この日、柳澤卓さんと佐藤綾子さんのお二人に名誉学生として賞状と記念品(アカデミックストール)が贈呈されました。

また、山形SCでは、卒業時に特に優秀な学業成績を修めた学生を顕彰しており、今回は3つ目のコースを修了された本間悟さんが「生涯学習奨励賞」を受賞されました。

山本所長からは式辞で、卒業生が長年に渡りご努力され学位を取得されたことにお祝いと労いの言葉がありました。様々な苦労や困難を克服されご卒業された皆様、誠におめでとうございます。皆様の晴れやかな姿が全科履修生の目標の一つになっています。皆様の今後ますますのご活躍をお祈りします。

【教養学部】

生活と福祉コース	1名
心理と教育コース	3名
社会と産業コース	4名
人間と文化コース	2名
情報コース	4名
自然と環境コース	3名



学位記授与式を終えての集合写真



卒業生体験談

「学ぶことの大切さ」

生活と福祉コース 樋渡 喜美子さん

上司から「介護福祉士の勉強をしてみたら」と言われ「職種は別でも同じ福祉の仕事だし」と軽い気持ちで介護福祉の勉強を。介護福祉士の資格を取ったら、「もう少し福祉のことを知りたい」と思ったからです。いざ始めてみると仕事、子育て、家庭と3つをやることでした。変則勤務のため、休みが思うようにとれない。面接授業に思うように参加できなかったこと。時間が取れるようになったのは退職してから。父母が亡くなっても今度は孫育て。なかなか思うようにはできない日々でした。休学も数回しましたが再授業し地域福祉や広い意味での世界のこと、子供達の立場などを学んだことは大切な時間でした。今は地域福祉に興味をもて楽しんでます。今回卒業したことを孫に伝え「よかったね。おめでとう」の言葉もらいました。卒業に時間はかかったけど人との関わり、看護技術の再確認ができたことが私の宝物です。時間があればまた…。

「「学び」が自信に!」

心理と教育コース 佐藤 明夫さん

現在57才。今回で4コース目の卒業となりました。

昨年度、大きな転機があり、30数年間勤めた会社が事業再構築を理由に、50代を対象にした希望退職制度を導入し、会社に残るか第二の人生を選択し転職するか、岐路に立たされました。この年齢での転職には、リスク・不安・悩みが伴うところ、私自身はそれらを全く気にせず、即、転職を選択しました。放送大学での「学び」が自信となり、如何なる境遇にも対処できる「心」が養われていたのだと思います。折角の第二の人生ですので異業種で働きたい気持ちに駆られ、自信をもって転職活動に取り組めたことで、希望通りの会社に正社員として採用されました。そして、今は仕事も趣味も楽しく、充実した日々を過ごしています。これらは「学び」が自信に繋がった結果であり、人生の岐路に立たされた私を救ってくれた、放送大学での「学び」に感謝しながら、10月からは5コース目に挑戦しています。

「知を求めて」

心理と教育コース 井上 和明さん

5年前に、心理学を学べば、仕事に何らかの有益になるのではないかとの思いで、選科履修生として入学しました。学習を進めていくなかで、自分の知らなかった、人々や先人の考え方・生き方、理論等を知り、知識を学ぶ楽しさを覚えて、全科履修生になりました。

人生100年時代において古希を迎えましたが、体力と気力が続く限り、知を求めて学び続けたいと思っています。

次学期からは、「生活と福祉コース」に再入学し学んで行きます。これからもよろしくお願いいたします。

「学ぶことは、一つの老い対策」

社会と産業コース 鈴木 正典さん

今回は2コース目ですが、放送大学にお世話になりましたのは、平成7年2学期からです。この年の1月に、阪神・淡路大震災が発生し、自然災害に対する脅威とともに、何か出来ないものかと思っていたところ、山形学習センターで学生受付を開始すると聞き、入学申請しました。

初めは卒業を目指すつもりは無く、科目履修生として「個体地球」と仕事でも関心のあった「環境アセスメント」科目から始め、暫くして選科履修生に種別変更。平成26年になって大学の学生課?から「全科履修生に」との電話をいただき、背中を押してもらっての全科履修生への挑戦でした。全科履修生になって、きつかったのは、外国語(英語)の単位修得、NHKラジオ「基礎英語」を活用するも、3回目ようやく合格しました。

学生として毎回緊張しながらも満喫したのは、面接授業です。興味あるテーマ、特に身近な県内の歴史・地勢・防災の学びが楽しかったです。

今後とも、人生いろいろ、皆様方に感謝しながら、老い対策の一つとして、学ぶ意欲を持ち続けたいものです。

「知の扉を開いて」

人間と文化コース 安達 眞樹子さん

遅い夕食を取っている時、ふとテレビを見るとフランスの古い教会が映し出されて、その説明が語られていました。この教会にそれほど歴史、宗教、文化、建築の意味があることに初めて気づかされ興味をそそられました。これが私と放送大学の出会いとなり、この講義を受けて学びたいとの思いで入学しました。

入学してみると、そこには多くの学びが準備されていて、あたかも知の大海に小さなボートで漕ぎ出すような感覚でした。卒業という水平線の彼方にある港にたどり着くことなど望むべくもありませんでした。しかし7年の歳月を経て、この度卒業の日を迎えることができました。

一つひとつ学びを進めていくことで、新しい世界の扉が開かれ、広い視野を得られるように感じています。視野の広がり、それまで抱いていた偏見を薄れさせることにも繋がります。これからも放送大学での学びを続け、次の「知の扉」を開いていきたいと思っています。

「先生方、友人達に感謝」

情報コース 柳澤 卓さん

私は定年退職後すぐに放送大学に入学し、学生としてかなり長い期間、少しずつ学び続けてきた。この9月、6つ目の「情報コース」を卒業し、「名誉学生」として皆さんの仲間入りをすることができた。ふり返ってみると「数学」関係の学習に時間を要したように思う。卒業研究のテーマは「微分積分」で山形大学の河村先生に指導していただいた。先生方や友人に助けてもらって何とか進むことができた。「微分方程式」は特に難しかった。その分、単位認定試験に合格したときは達成感があった。先生方、友人達に感謝する。

今後は科目履修生として学び続けていきたいと思っている。さらに私は「同窓会」、「ゆうがくの会」、「英語講読会」の会員でもあり、この方面での活動も進めていきたいと考えている。特に「英語講読会」は会員も少ないが、内容がとても面白い。時間をかけ、かかわっていききたいと思っている。

「自然と環境コースを終えて」

自然と環境コース 佐藤 綾子さん

「自然と環境コース」は苦手意識があり、最後のコースになりました。

「地球」「宇宙」「気象」「生物」の科目をとり、学習しました。この期間中は、普通に生活しながら、太陽や雲や雨、鳥の声を身近に感じました。

また、「宮沢賢治と宇宙」では、天文学を学びながら、宮沢賢治の人生と作品を知ることができました。たいへん有意義な科目でした。

壮大な宇宙で、コツコツ生活している自分も、地球環境の変化に影響を与えている事など、改めて考えさせられるコースでした。

入学当時は、面接授業や、単位認定試験で学習センターに行くことが多かったです。そこで、たくさんの仲間と会い、勇気をもらい、学習意欲も増したように感じます。

2学期からは、新たに選科履修生です。もう少し学び続けます。

「世界が少し広がってくる」

自然と環境コース 寒河江 淑子さん

世の中は広い。私はその中の小さな世界で毎日を過ごしている。仕事中心の世界。子供中心の世界。子供と仕事を両軸とした世界。子供の成長に合わせた世界は困難さもあるが、楽しみ・充実感・幸福感が広がっていた。

子供が大学進学と同時に巣立つことが決まった時、ぽっかりと空いてしまいそうな心の隙間や時間に漠然とした不安感。「大学」というワードが心に引っ掛かり、私も大学に行こうと思いついた。

もともと興味のあった自然と環境コースに入り、興味深く学習を進めていた。2年目の科目選択の際、情報系の科目が目に残るようになり、ちょっとやってみようかとチャレンジすることにした。超アナログで理解できず不合格で終わってしまった科目もあれば早々と撤退した科目もある。結局、基盤をかじった位だが、放送大学に入らなければ避けていただろう情報系の世界に1歩踏み出すことができた。あとは自分次第。

「4回目の卒業」

自然と環境コース 高橋 康輔さん

学ぶ機会を得るために再入学を繰り返し、4回目の卒業をすることができました。最近はおつこつ学ぶ時間が作れず、面接授業で少しずつ単位を取っていましたが、卒業に4年かかりました。放送大学で勉強を始めてから、途中休みつつも約25年が経過し、大学生であることが生活の一部になっています。

先日、久しぶりに学習センターの図書・視聴室に行きました。昔は試験前でなくても誰かはいましたが、授業も試験もインターネットが基本となった今は、誰もいませんね。単位認定試験中の大混雑を懐かしく思い出しました。通信制大学での学習は孤独とのたたかいを経て、長い時間をかけて生活の一部へと変化していきますが、思い返せば面接授業や学生控室での雑談がモチベーション維持に大切だったことも事実です。

交流を大事に、これからも勉強を続けていきます。



令和7年度 第2学期入学者の集いを開催しました

今学期、山形SCには継続入学の方を含め179名の方が入学され、10月5日(日)に当センターにおいて令和7年度第2学期入学者の集いを開催しました。

放送大学岩永雅也学長からの入学者へのメッセージの上映に引き続き、山本陽史所長から入学者の皆さんにお祝いの言葉がありました。

ガイダンスでは、センターの利用方法や修学上の留意事項等について、山形SCのWebサイトやシステムWAKABA等も紹介しながら確認し、入学者は今後の学習に向け理解を深めることができましたようです。

最後に、センター所属の5つのサークルから活動紹介と入会の案内がありました。

皆さん、山形SCで楽しく学びを深めていきましょう！



第1・2学期の面接授業の実施状況を紹介します

「アメリカ：過去と現在」 伊藤 豊 先生 (山形大学)

アメリカの歴史と現状を多角的な視点から考察し、現代アメリカをより深く理解することを目標に学びました。授業の合間には意見交換の機会も設け、学生同士のディスカッションを通して理解をさらに深めることができました。

受講した学生からは、「動画や楽曲が効果的に使われていて理解しやすかった」と好評でした。

この授業を発展させ、2026年度第1学期に『移民とアメリカ：過去から現在へ』という新しい授業を開講します。これまで受講した方も再び受講可能ですので、アメリカへの理解をさらに深める絶好の機会です。

「地域社会の多文化共生を考える」 内海 由美子 先生 (山形大学)

日本人の人口が減る中で在留外国人が増える今、誰もが安心して暮らすことができる地域を作るために、多文化共生の在り方を学びました。

2日目は実際に留学生と対話し、ワークショップ形式を取り入れながら授業を行いました。

受講者からは、「多文化共生のためにできることを具体的に知ることができた。」「実際に外国の方と交流することで、講義で学んだ内容を実践できとても有意義だった」と大変好評でした。





受講してみませんか？（2026年度第1学期 面接授業・ライブWeb授業）

2026年度 第1学期の面接授業を紹介します《予告》

注目!

2026年度第1学期には、山形にゆかりの科目も含め、多彩な科目を開講予定です。

「出羽三山信仰を学ぶ」 岩鼻 通明 先生（東北公益文科大学）

出羽三山を中心に日本の山岳信仰の広がりや霊山文化を学びます。古文書や古地図を手がかりに、霊山の信仰世界をたどってみましょう。

「人類学とはなにか」 松本 剛 先生（山形大学）

人類学が生まれた背景や、その多様な研究内容などを学びます。南米ペルーや日本、ベトナムでの具体的な研究例を通して、人びとの暮らしや考え方を人類学の視点から探ってみませんか？

「アカデミックライティング実践編」 橋爪 孝夫 先生（山形大学）

レポートの書き方について、実践的なコツを学びます。自身で用意したテーマと資料をもとに、講義の中で実際にレポートを完成させることを目指します。レポートの書き方に自信をつけたい方におすすめです。

「デジタル社会のためのリテラシー」(BYOD科目) 船場 忠幸 先生（山形県立産業技術短期大学校）

デジタル社会に必要なリテラシーや、AIを上手に使いこなすための基礎知識を学びます。AIを活用して仕事の効率を上げたい方や、データ分析を学んでみたい方におすすめです。

2026年度第1学期、山形学習センターでライブWeb授業を初開講! **NEW**

『みちのくの芭蕉－奥の細道・出羽路』(ライブWeb授業) 山本 陽史 山形学習センター所長

芭蕉とともに旅をした弟子・河合曾良による『曾良随行日記』を中心に、芭蕉が出羽で何を見て、何を感じ、どのような足跡を残したのかを読み解きます。

『奥の細道』自筆本や各地に伝わる資料にも触れながら、本を読むだけでは味わえない“芭蕉の旅のリアル”に迫ります。俳句や歴史、旅が好きな方はもちろん、文学に触れてみたい方にもおすすめです。かつて芭蕉と曾良が歩いた道を、一緒にたどってみませんか。

ライブWeb授業ってどういうものなの？

- ▶特徴は？ ご自宅のパソコンからリアルタイムで参加できる授業です。
- ▶手続きは？ 講義資料の閲覧、出席登録、Zoomへの参加、課題提出など、必要な手続きはすべて専用の学習システム(LMS)で完結します。
ライブWeb授業開講日時にZoomへ入室して授業を受け、科目ごとに設定された期限内に課題(レポートなど)を提出します。
- ▶メリットは？ 教室に足を運ばなくても、先生や仲間とつながりながら学べるのがポイント。
通学の手間がなく、スケジュール管理もしやすいため、忙しい方にもぴったりです。
「教室で学んでいるような感覚」×「オンラインの便利さ」この両方を兼ね備えた学びを、ぜひ体験してみてください。



Web単位認定試験およびパソコン操作体験会の開催について

2025年度第2学期Web単位認定試験実施期間は以下のとおりです。忘れずに受験しましょう！

出題形式	択一式	2026年1月18日(日) 9:00～1月26日(月) 17:00
	記述式・併用式	2026年1月18日(日) 9:00～1月22日(木) 17:00

Web単位認定試験の受験が不安な方に…Web単位認定試験のパソコン操作体験会を開催します！

実施期間 2026年1月14日(水)～16日(金) 10:30～16:00

マンツーマンで操作方法の説明とご不明な点にお答えします！

場 所 山形SC 101教室

対 象 初めてWeb単位認定試験を受験する学生を対象としますが、既に体験・受験した方でもシステムWAKABAへのログインやパソコンの操作等の復習も兼ねて、自主研修の機会として気楽に参加いただいてもOKです！

希望される方は、必ず事務室窓口か電話またはメールにて「氏名」と「希望日時」を事前に予約した上でご参加ください。

予約方法 電話:023-646-8836

メール:ymg-sc@ouj.ac.jp



2026年度第1学期に履修する科目の登録が始まります！

科目登録方法には、【システムWAKABA】と【郵送】の2通りがあり、登録期間はそれぞれ下記のとおりです(今学期で学籍がなくなる方は継続入学の手続きが必要です)

科目登録方法	登録期間
システムWAKABA	2026年2月13日(金)～2月28日(土)
郵送	2026年2月13日(金)～2月27日(金)



「学生生活の葉」の冊子配布を取りやめWeb公開に移行します(2026年度～)

2026年度版より、当該冊子の全学生への配布を取りやめ、Webでの公開に一本化されることとなりました。

Web閲覧が難しい方については、知りたい情報の掲載箇所のご案内や窓口での閲覧など、可能な範囲でご支援しますのでお申し出ください。

また、合理的配慮が必要な方で冊子を必要とされる学生については、本部から個別に送付いたしますので、山形SCまでご連絡ください。



2026年度版はシステムWAKABA→「学生生活の葉」をご覧ください。

重要! 支払いがキャッシュレス決済で簡単・便利に!

- ★ 2025年10月から全国の学習センターで「キャッシュレス決済」を導入しています!
- ★ 窓口までお越しいただくことなくスマホやコンビニから各種支払いができるようになったほか、窓口でもキャッシュレス端末機により支払いが可能となりました!
- ★ 原則、現金・現金書留・郵便定額小為替証書の取扱いはいたしません、事情によりキャッシュレス決済が難しい場合はご相談ください。

≫ 詳しくは放送大学・放送大学山形SCのWebサイトをご確認ください。

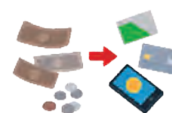
取扱い方法

- ・ 学習センター窓口による手続き: 窓口の決済用端末機によりお支払い
- ・ 郵送によるお手続き: 郵送による各種申請申込後(返信用封筒を同封)、センターから送付する決済用メールに記載のURLより支払い方法を選び、スマホやコンビニ等から支払いできます。決済用メールは「SMBCマルチペイメントサービス(system@p01.smbc-gp.co.jp)」から届きます。



利用できるキャッシュレス決済

- ・ 証明書等発行手数料(1通につき200円)
- ・ 学生証再発行手数料(1件につき500円)
- ・ 学研災保険料
- ・ 文献複写手数料【窓口決済のみ】
- ・ 面接授業・ライブWeb授業の追加登録授業料



対象となるお支払い (2025年11月現在)

	窓 口 決 済	メール決済(ご自宅等から)
コ ー ド 決 済	PayPay/au PAY/メルペイ/ゆうちょPay/WeChat Pay/Alipay/銀聯	d払い/au PAY
電 子 マ ネ ー	iD/楽天Edy/WAON/nanaco/QUICPay+/交通系電子マネー(PiTaPaを除く)	お取り扱いできません
コ ン ビ ニ 決 済	お取り扱いできません	ローソン/ファミリーマート/ミニストップ/デイリーヤマザキ/セイコーマート
クレジットカード	VISA/Mastercard/JCB/AMEX/Diners/DISCOVER/銀聯	VISA/Mastercard/JCB/AMEX/Diners/DISCOVER

ご注意ください!

- ※ キャッシュレス決済でのお支払いが確定した後の返金やキャンセルはできません(面接授業・ライブWeb授業で閉講等があった場合の授業料は後日、銀行振込等により返金いたします)。
- ※ 窓口での電子マネーなどのチャージはできません。残額をご確認のうえお越しく下さい。

重要 (予告)

- ※ 2026年4月から**面接授業・ライブWeb授業の追加登録**の際、支払い方法に関わらず授業料のほかに**新たに事務手数料(1科目につき200円)**が必要になります。



これからの催し(予定)

※詳細が決まり次第山形SC Webサイトでお知らせします

公開講演会のお知らせ



「ユネスコ創造都市ボローニャから文化交流を考える」(仮)

2026年3月18日(水) 山形学習センター

15:15~16:00 山本陽史放送大学山形学習センター所長

16:15~17:30 佐藤琴山形大学教授(ボローニャ大学ポッジ博物館から動画配信+ライブ中継)

ゆうがくの会「新春特別講演会」のお知らせ

「大河ドラマを10倍楽しむ方法」山本陽史山形学習センター所長

2026年2月7日(土) 13:30~14:30 山形学習センター講義室

終了後、お茶会がありますのでどうぞご参加ください(参加費100円)。



来年は午年！
学習がウマく
いくといいね！

所長の茶話会を始めます！(来春スタート!)

学習のことに限らず、気になっていること、聞いてみたいことなど、所長や参加者と気軽にしゃべりしてみませんか？



開催しました！

山形学習センター開設30周年記念講演会

10月5日(日)、「時代小説の楽しみー作家高橋義夫氏をお迎えして」と題し、直木賞作家高橋義夫氏の講演「歴史作家の見た江戸と山形」、高橋氏と山本所長の対談「知っているようで実は知らない江戸の戯作者たち」を霞城セントラル(山形市)で開催しました。約90名の学生や一般の皆さんが参加され、大好評のうちに終了しました。



放送大学同窓会東北・北海道地区交流会

9月6日(土)・7日(日)の両日、山形学習センターの同窓会が幹事となって開催されました。1日目は客員教授の荒木先生の講演「城下町山形の発展と歴史的文化遺産」と各道県同窓会の情報交換会、2日目は荒木先生にご案内、ご説明いただきながら霞城公園山形城址、最上義光歴史館の現地研修を行いました。参加者は山形を舞台にした歴史絵巻に心躍らせていたようです。



学習相談のご案内

所長・客員教員が学習に関する相談に応じています(1時間以内)。客員教員の在所予定は山形SCのWebサイトで確認できますので、相談したい内容と日程が決まりましたら希望日の1週間前までに「学習相談受付票」を御提出ください(窓口・郵送・メール・学習相談フォーム)。



大事な連絡を見逃さないようチェックしましょう！

放送大学・放送大学山形SCのWebサイトのお知らせ、キャンパスメール、X(旧Twitter)を定期的に確認しましょう！



放送大学Webサイト



山形SCWebサイト



山形SCX

お問合せ・資料請求・お申込みは

▶ インターネットでも出願や資料請求(無料)ができます! www.ouj.ac.jp

放送大学

検索

〒990-8580 山形市城南町1-1-1 霞城セントラル10階

放送大学山形学習センター

TEL 023-646-8836 FAX 023-646-8838

E-mail ymg-sc@ouj.ac.jp

<https://www.sc.ouj.ac.jp/center/yamagata/>

